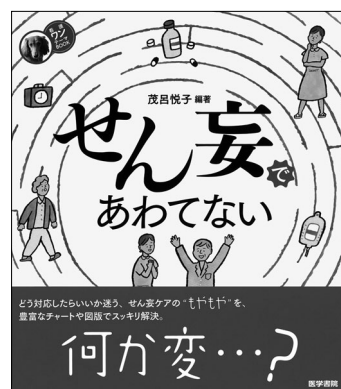


『せん妄であわてない』 臨地実習で せん妄に遭遇する 学生の指導にも最適

編著：茂呂悦子／定価：1,890 円(本体 1,800 円＋税 5%)
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



せん妄ケアだけに焦点を当てた参考書は、ほとんど見当たらなかったように思います。著者が「はじめに」のなかで述べているように、現在、クリティカルケア領域におけるせん妄は、ICU 在室日数・入院日数の延長、退院後 6 か月での死亡率の独立予測因子であることが報告され、ICU 退室後の PTSD 様症状との関連が指摘されています。また、65 歳以上の ICU 入室患者では 70% 以上という高い発症率の報告があるなか、その多くは見落とされているという指摘もあります。このような現状を踏まえると、せん妄を“看護の力”で早期発見し予防していきたいと思いませんか。“看護の力”を発揮するためにも本書が活用できます。

私は高齢者看護を担当していますが、学生が受け持つ患者でせん妄が出現していることも珍しくありません。せん妄ケアの難しさを、学生と臨地実習で経験したことがありました。学生が実習初日、入院してきたばかりの 78 歳の女性を受け持つことになり、患者と大変楽しそうに会話ができていました。ところが、翌日の朝、学生が挨拶に行ったときのことで。涙を浮かべながら小走りに私に近づいて来たため「どうしたの？」と尋ねると、「患者さんがベッドに縛りつけられていて……、大きな声で『助けてくれー』と叫んでいるんです。そして、足をバタバタさせながら掛け物を蹴飛ばしているんです。昨日はすごく楽しそうに

していて元気だったのに……。私はどうしたらいいのかわからないんです……」と報告してきました。臨床ではこのようなケースは多く、看護師たちもどのようなケアが必要なのかと試行錯誤しているのが現状ではないでしょうか。ただ、それが学生には十分伝わらなかったのだと思います。

本書は、著者が臨床現場でせん妄患者への対応に戸惑ったり悩んだりした看護実践の経験知を紹介しています。臨床現場の看護師にとって待ち望んだテキストであります。認知症患者が増加しておりせん妄との違いなども判断が難しいのですが、このテキストではわかりやすく説明されています。また、臨場感あふれる事例が多く、現場で十分活用できる内容です。さらに、絵や図が多く大切な箇所はカラーで強調されており、学生にとっても「手にとってみたい」参考書となっております。何よりコンパクトであるためいつでも持ち運びができます。

せん妄ケアは、これから“看護の世界”で重要な課題であると言っても過言ではありません。臨床看護師だけでなく、学生を指導する教員や多職種の方々にも活用できると考えます。